

令和5年山口県人口移動統計調査結果年報
山口県人口の動き
 (令和4年10月～令和5年9月の人口移動と推計人口)

I 山口県の状況

1 推計人口

(1) 総人口

令和5年10月1日現在の山口県の推計人口は1,296,593人で、令和4年10月1日現在に比べ16,357人の減少(対前年増減率△1.2%)となった。

総人口の推移をみると、昭和60年の1,601,627人を2回目のピークに減少に転じた後、一貫して減少を続けており、減少幅も拡大傾向にある。(表1、図1)

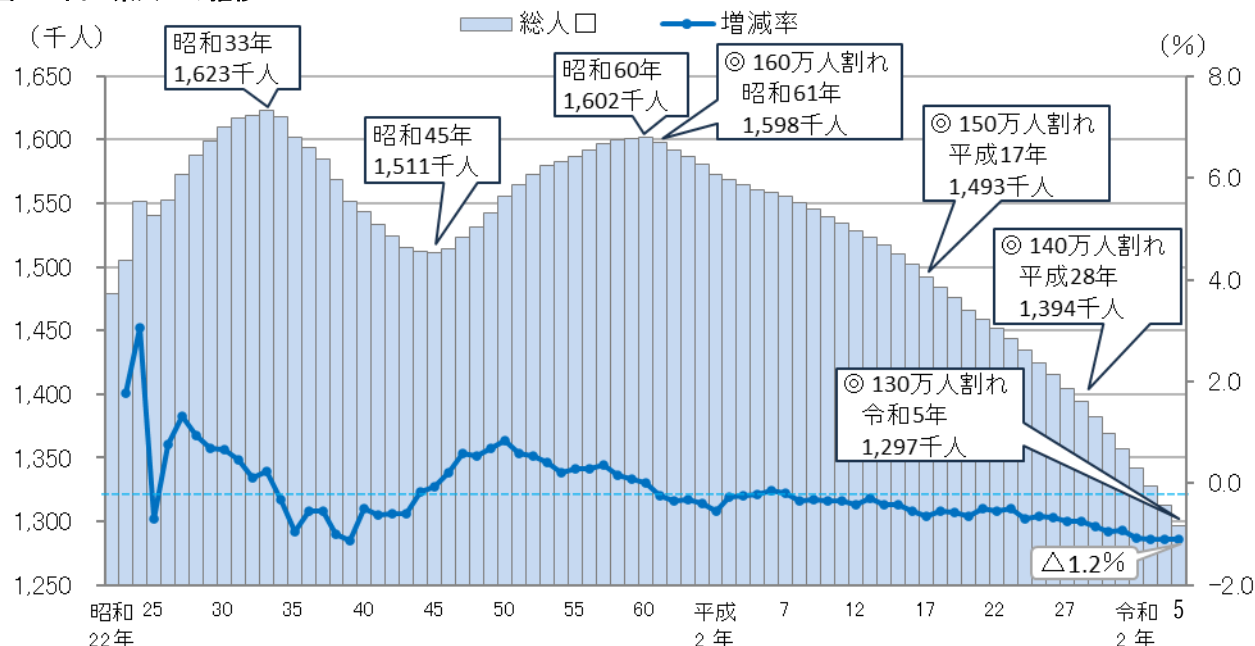
表1 総人口の推移

(単位:人、%)

	総人口	対前年増減	増減率		総人口	対前年増減	増減率
昭和 40	1,543,573	△ 7,710	△ 0.5	17	1,492,606	△ 9,617	△ 0.6
45	1,511,448	△ 1,180	△ 0.1	22	1,451,338	△ 7,790	△ 0.5
50	1,555,218	13,001	0.8	27	1,404,729	△ 10,466	△ 0.7
55	1,587,079	4,485	0.3	令和 2	1,342,059	△ 14,530	△ 1.1
60	1,601,627	190	0.0	3	1,327,452	△ 14,607	△ 1.1
平成 2	1,572,616	△ 8,529	△ 0.5	4	1,312,950	△ 14,502	△ 1.1
7	1,555,543	△ 3,181	△ 0.2	5	1,296,593	△ 16,357	△ 1.2
12	1,527,964	△ 6,549	△ 0.4				

(注)1 各年10月1日現在、総務省「国勢調査」による常住人口。ただし、令和3、4、5年は県推計人口
 2 昭和40年～令和2年の「対前年増減」は、総務省「人口推計」(補間補正值)による前年人口により算出

図1 山口県人口の推移



(注)1 各年10月1日現在(ただし、昭和23年は8月1日現在)
 2 昭和22年は、総務省「臨時国勢調査」による現在人口、昭和23年は、総務省「常住人口調査」による人口
 3 昭和25、30、35、40、45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27、令和2年は、総務省「国勢調査」による常住人口
 4 令和3、4、5年は「山口県人口移動統計調査」による県推計人口
 5 その他の年は、総務省「人口推計」(補間補正值)

(2) 男女別人口

令和5年の総人口を男女別にみると、男性616,598人、女性679,995人であった。
人口性比（女性100人に対する男性の数）は、前年に比べ0.1ポイント上昇し90.7となっている。（表2）

表2 男女別人口の推移

（単位：人）

年次	昭和				年次	令和			
	総人口	男	女	人口性比		総人口	男	女	人口性比
昭和40	1 543 573	740 934	802 639	92.3	17	1 492 606	703 721	788 885	89.2
45	1 511 448	719 147	792 301	90.8	22	1 451 338	684 176	767 162	89.2
50	1 555 218	743 833	811 385	91.7	27	1 404 729	665 008	739 721	89.9
55	1 587 079	759 255	827 824	91.7	令和2	1 342 059	636 736	705 323	90.3
60	1 601 627	763 803	837 824	91.2	3	1 327 452	630 367	697 085	90.4
平成2	1 572 616	744 844	827 772	90.0	4	1 312 950	624 000	688 950	90.6
7	1 555 543	736 555	818 988	89.9	5	1 296 593	616 598	679 995	90.7
12	1 527 964	722 683	805 281	89.7					

（注）1 各年10月1日現在、総務省「国勢調査」による常住人口。ただし、令和3、4、5年は県推計人口
2 人口性比＝男子人口÷女子人口×100

(3) 地域別人口

令和5年の総人口を地域別にみると、前年に比べ全ての地域で減少した。
前年からの減少率が最も高いのは、柳井地域（△2.4%）、次いで長門地域（△2.3%）、萩地域（△2.1%）となっている。（表3）

表3 地域別人口の推移

（単位：人）

年次	総人口	地域別							
		岩国	柳井	周南	山口・防府	宇部・小野田	下関	長門	萩
昭和40	1 543 573	169 042	110 718	250 179	256 561	289 615	317 146	57 669	92 643
45	1 511 448	165 078	101 891	263 384	257 356	269 518	315 603	53 247	85 371
50	1 555 218	169 125	98 962	286 706	270 010	274 640	322 300	51 421	82 054
55	1 587 079	171 208	95 824	295 662	285 058	281 839	325 478	50 892	81 118
60	1 601 627	169 010	92 732	296 715	301 216	288 368	324 585	50 259	78 742
平成2	1 572 616	165 379	87 914	290 602	305 427	285 539	315 643	47 656	74 456
7	1 555 543	163 306	83 221	286 644	311 975	283 912	310 717	45 565	70 203
12	1 527 964	160 717	79 151	281 381	314 839	281 006	301 097	43 473	66 300
17	1 492 606	156 143	75 228	276 154	316 115	275 055	290 693	41 127	62 091
22	1 451 338	150 235	70 637	273 489	313 239	266 952	280 947	38 349	57 490
27	1 404 729	143 042	65 745	267 340	313 364	258 259	268 517	35 439	53 023
令和2	1 342 059	135 159	59 853	257 708	307 945	246 143	255 051	32 519	47 681
3	1 327 452	133 418	58 588	255 538	306 059	243 635	251 716	31 803	46 695
4	1 312 950	131 686	57 420	253 315	304 404	240 992	248 236	31 142	45 755
5	1 296 593	129 740	56 030	250 261	303 204	237 674	244 470	30 422	44 792
構成比	100.0%	10.0%	4.3%	19.3%	23.4%	18.3%	18.9%	2.3%	3.5%
増減率	△1.2%	△1.5%	△2.4%	△1.2%	△0.4%	△1.4%	△1.5%	△2.3%	△2.1%

（注）1 各年10月1日現在、総務省「国勢調査」による常住人口。ただし、令和3、4、5年は県推計人口
2 昭和40年～平成17年の地域別人口について、各調査年の人口を令和5年10月1日現在の市町別境界により組み替えて算出
3 構成比は令和5年の数値。小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない
4 増減率は、令和5年人口の令和4年人口に対する増減率

〈地域区分〉 岩国地域：岩国市、和木町 柳井地域：柳井市、周防大島町、上関町、平生町
周南地域：下松市、光市、周南市、田布施町
山口・防府地域：山口市、防府市 宇部・小野田地域：宇部市、美祢市、山陽小野田市
下関地域：下関市 長門地域：長門市 萩地域：萩市、阿武町

(4) 年齢別人口

○ 年齢（3区分）別人口

令和5年の総人口を年齢（3区分）別にみると、15歳未満人口は142,942人（対前年△4,152人）、15～64歳人口は695,113人（同△8,996人）、65歳以上人口は458,538人（同△3,209人）となっており、3区分とも減少している。また、75歳以上の人口は259,608人（同+6,561人）となっている。

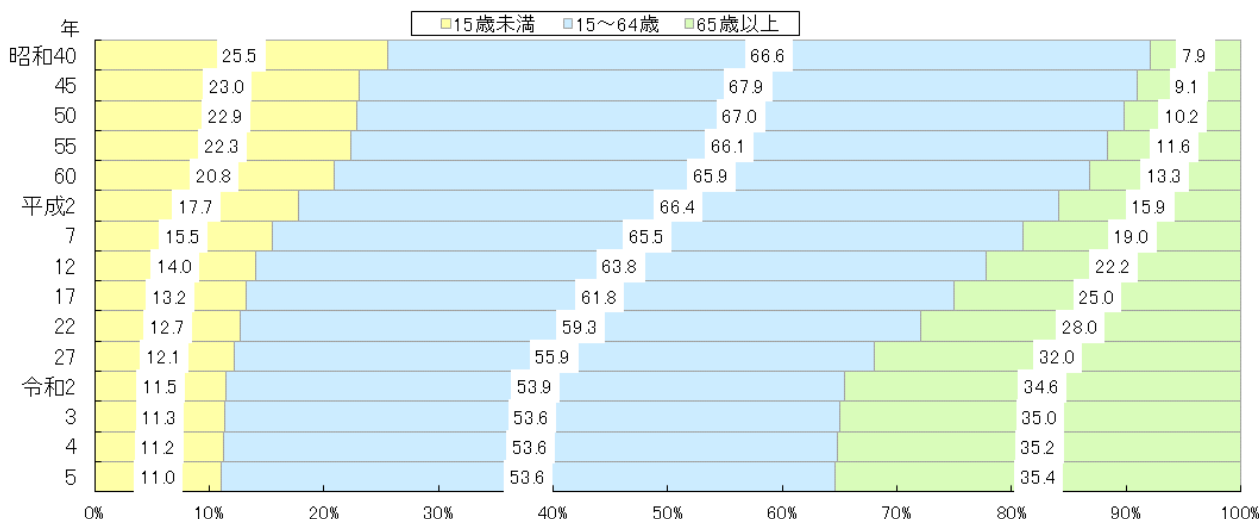
年齢（3区分）別人口の構成割合をみると、15歳未満人口は11.0%（対前年△0.2ポイント）、15～64歳人口は53.6%（前年と同値）、65歳以上人口は35.4%（対前年+0.2ポイント）となっている。また、75歳以上の構成割合は20.0%（同+0.7ポイント）となっている。（表4、図2）

表4 年齢(3区分)別人口の推移

年次	実数(人)					構成割合(%)			
	総人口	15歳未満	15～64歳	65歳以上	うち 75歳以上	15歳未満	15～64歳	65歳以上	うち 75歳以上
昭和40	1 543 573	393 960	1 027 984	121 629	38 399	25.5	66.6	7.9	2.5
45	1 511 448	348 362	1 025 839	137 247	44 421	23.0	67.9	9.1	2.9
50	1 555 218	355 657	1 041 291	158 042	54 723	22.9	67.0	10.2	3.5
55	1 587 079	354 404	1 048 137	184 160	66 699	22.3	66.1	11.6	4.2
60	1 601 627	333 923	1 055 436	212 237	83 318	20.8	65.9	13.3	5.2
平成2	1 572 616	278 562	1 042 910	249 488	103 462	17.7	66.4	15.9	6.6
7	1 555 543	240 469	1 018 839	295 702	122 231	15.5	65.5	19.0	7.9
12	1 527 964	213 578	974 131	339 836	147 763	14.0	63.8	22.2	9.7
17	1 492 606	196 729	920 531	373 346	181 725	13.2	61.8	25.0	12.2
22	1 451 338	184 049	857 956	404 694	210 782	12.7	59.3	28.0	14.6
27	1 404 729	170 406	784 584	449 739	226 791	12.1	55.9	32.0	16.1
令和2	1 342 059	153 838	723 588	464 633	245 347	11.5	53.9	34.6	18.3
3	1 327 452	150 619	712 138	464 695	245 148	11.3	53.6	35.0	18.5
4	1 312 950	147 094	704 109	461 747	253 047	11.2	53.6	35.2	19.3
5	1 296 593	142 942	695 113	458 538	259 608	11.0	53.6	35.4	20.0

- (注) 1 各年10月1日現在、総務省「国勢調査」による常住人口。ただし、令和3、4、5年は県推計人口
 2 平成27年及び令和2年は、国勢調査不詳補充結果（平成27年は遡及集計）
 3 昭和50年～平成22年について、年齢不詳人口を本表に記載していないため年齢区分別人口の合計は総人口に一致しない
 構成割合は、分母（総人口）から年齢不詳を除いて算出

図2 年齢（3区分）別人口割合の推移



○ 年齢（5歳階級）別人口

令和5年の総人口を年齢（5歳階級）別にみると、構成割合は、70～74歳の8.6%が最も高く、次いで75～79歳（7.3%）、50～54歳（7.2%）となっている。（表5、図3）

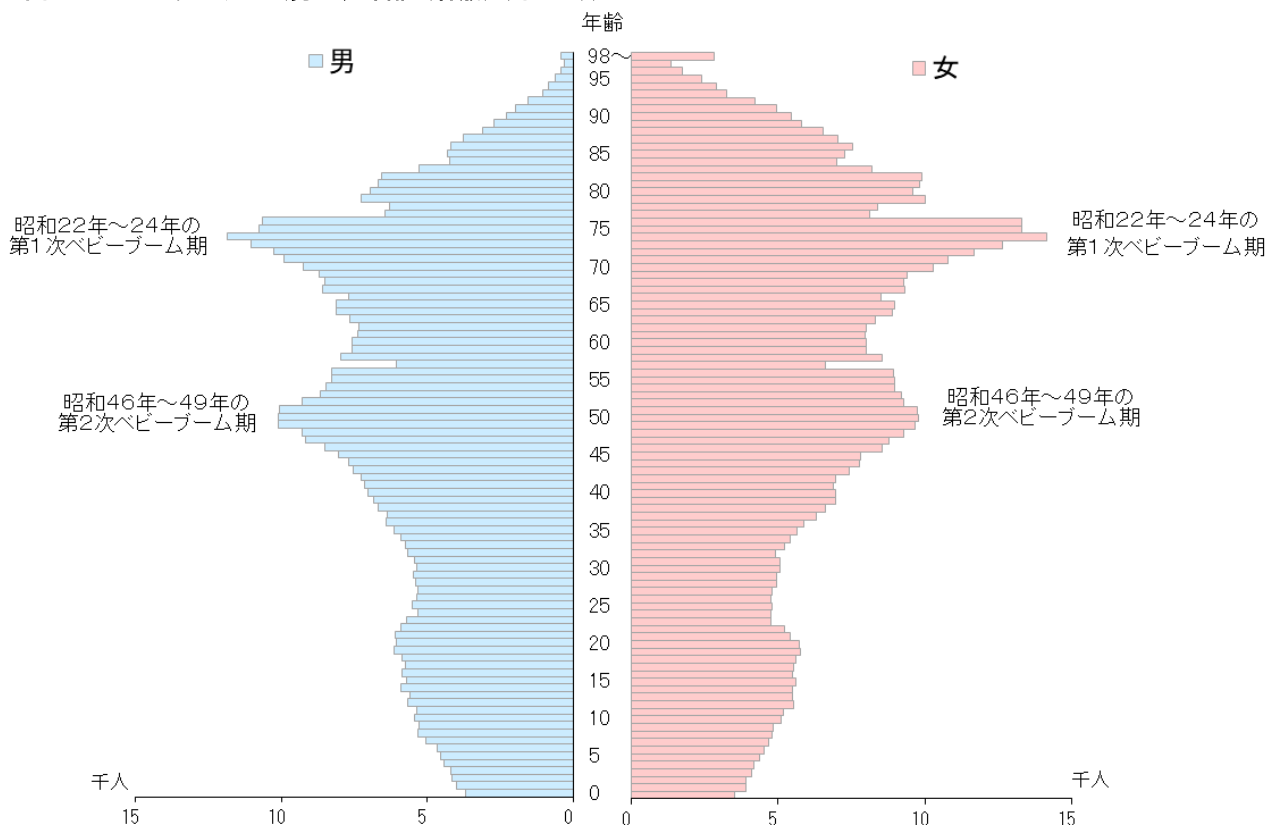
表5 年齢(5歳階級別)人口

(単位:人、%)

年齢	実数			人口性比	構成割合		
	総数	男	女		総数	男	女
総数	1,296,593	616,598	679,995	90.7	100.0	100.0	100.0
0～4	40,111	20,473	19,638	104.3	3.1	3.3	2.9
5～9	48,030	24,850	23,180	107.2	3.7	4.0	3.4
10～14	54,801	27,974	26,827	104.3	4.2	4.5	3.9
15～19	57,362	29,358	28,004	104.8	4.4	4.8	4.1
20～24	54,983	29,072	25,911	112.2	4.2	4.7	3.8
25～29	51,326	27,023	24,303	111.2	4.0	4.4	3.6
30～34	53,796	28,092	25,704	109.3	4.1	4.6	3.8
35～39	63,827	32,453	31,374	103.4	4.9	5.3	4.6
40～44	72,700	36,682	36,018	101.8	5.6	5.9	5.3
45～49	89,190	45,136	44,054	102.5	6.9	7.3	6.5
50～54	93,521	46,591	46,930	99.3	7.2	7.6	6.9
55～59	79,200	38,140	41,060	92.9	6.1	6.2	6.0
60～64	79,208	38,083	41,125	92.6	6.1	6.2	6.0
65～69	87,077	41,622	45,455	91.6	6.7	6.8	6.7
70～74	111,853	52,346	59,507	88.0	8.6	8.5	8.8
75～79	94,548	41,458	53,090	78.1	7.3	6.7	7.8
80～84	74,235	29,758	44,477	66.9	5.7	4.8	6.5
85～89	52,239	18,067	34,172	52.9	4.0	2.9	5.0
90～94	28,503	7,689	20,814	36.9	2.2	1.2	3.1
95歳以上	10,083	1,731	8,352	20.7	0.8	0.3	1.2

(注) 1 令和5年10月1日現在
2 人口性比=男子人口÷女子人口×100

図3 人口ピラミッド(男女、年齢(各歳)別人口)



(注) 令和5年10月1日現在

(5) 日本人・外国人別人口

○ 日本人・外国人別人口

令和5年の総人口を日本人・外国人別にみると、日本人は1,278,519人で前年に比べ18,368人の減少、外国人は18,074人で前年に比べ2,011人の増加となっている。また、人口性比を日本人・外国人別にみると、日本人の90.6%に対し、外国人は98.6%で、日本人に比べ外国人は人口に占める男性の割合が高くなっている。

近年の日本人・外国人別人口の推移をみると、日本人は減少し続けている一方、外国人は、令和3年の減少から令和4年に増加に転じている。(表6)

表6 日本人・外国人別人口の推移

(単位:人)

年次	日本人				外国人			
	総数	男	女	人口性比	総数	男	女	人口性比
平成27年	1,393,085	659,705	733,380	90.0	11,644	5,303	6,341	83.6
令和2年	1,326,043	629,146	696,897	90.3	16,016	7,590	8,426	90.1
令和3年	1,312,124	623,055	689,069	90.4	15,328	7,312	8,016	91.2
令和4年	1,296,887	616,112	680,775	90.5	16,063	7,888	8,175	96.5
令和5年	1,278,519	607,625	670,894	90.6	18,074	8,973	9,101	98.6

(注) 1 各年10月1日現在

2 平成27年及び令和2年は国勢調査不詳補完結果(平成27年は遡及集計)、令和3、4、5年は県推計人口

3 人口性比=男子人口÷女子人口×100

○ 総人口に占める外国人人口の割合

令和5年の総人口に占める外国人人口の構成割合をみると、前年に比べ0.1ポイント上昇し1.3%となっている。(表7)

表7 外国人人口の割合の推移

(単位:人、%)

年次	総数	男		女	
		うち外国人	構成割合	うち外国人	構成割合
平成27年	1,404,729	11,644	0.8	739,721	0.9
令和2年	1,342,059	16,016	1.2	705,323	1.2
令和3年	1,327,452	15,328	1.2	697,085	1.1
令和4年	1,312,950	16,063	1.2	688,950	1.2
令和5年	1,296,593	18,074	1.4	679,995	1.3

(注) 1 各年10月1日現在

2 平成27年及び令和2年は国勢調査不詳補完結果(平成27年は遡及集計)、令和3、4、5年は県推計人口

2 人口動態

(1) 人口動態の推移

令和5年（令和4年10月～令和5年9月、以下同様）の人口動態をみると、自然増減は14,003人の減少、社会増減は2,354人の減少、総人口増減は16,357人の減少となり、総人口の減少幅は前年に比べ1,855人拡大した。（表8、図4）

表8 人口動態の推移

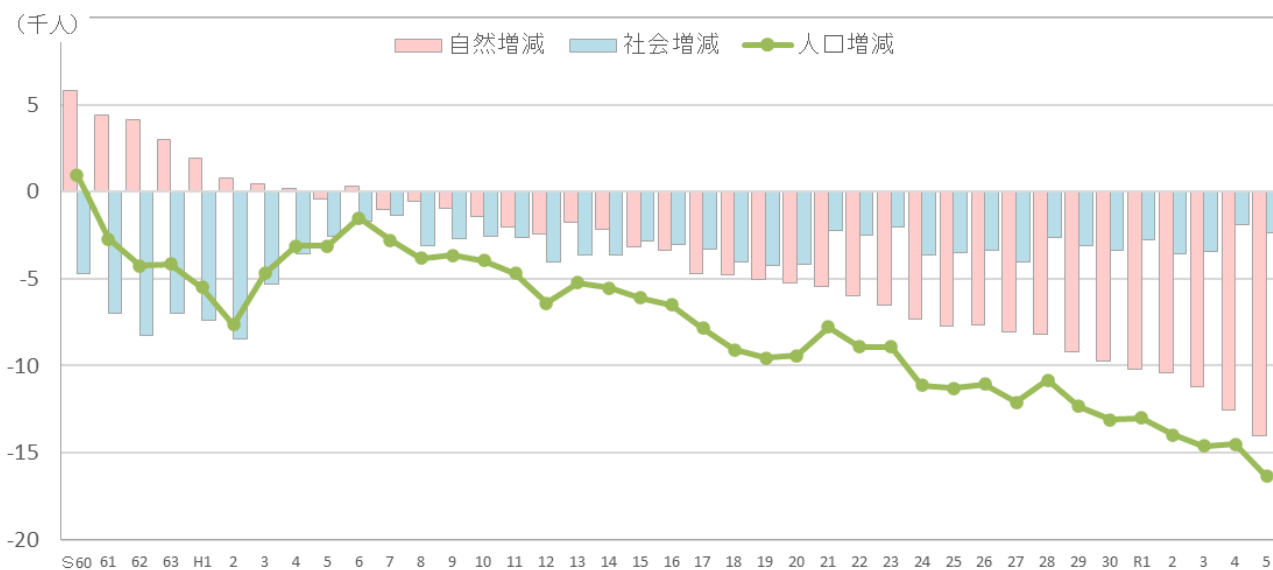
（単位：人）

	人口増減 (a)+(b)	自然増減 (a)	出生児数		死亡者数	社会増減 (b)	転入		転出	
			出生児数	死亡者数			転入	うち県外	転出	うち県外
平成25年	△ 11,291	△ 7,756	10,867	18,623	△ 3,535	46,794	25,858	50,329	28,052	
26	△ 11,065	△ 7,683	10,416	18,099	△ 3,382	46,267	25,936	49,649	28,526	
27	△ 12,100	△ 8,045	10,404	18,449	△ 4,055	45,741	25,572	49,796	28,985	
28	△ 10,825	△ 8,182	10,075	18,257	△ 2,643	45,175	26,073	47,818	27,781	
29	△ 12,320	△ 9,201	9,482	18,683	△ 3,119	44,991	25,917	48,110	28,277	
30	△ 13,089	△ 9,731	9,261	18,992	△ 3,358	44,998	25,979	48,356	28,474	
令和元年	△ 13,000	△ 10,221	8,849	19,070	△ 2,779	46,742	27,660	49,521	29,499	
2	△ 13,989	△ 10,428	8,462	18,890	△ 3,561	43,692	25,129	47,253	28,116	
3	△ 14,607	△ 11,194	8,109	19,303	△ 3,413	42,132	24,217	45,545	27,088	
4	△ 14,502	△ 12,585	7,901	20,486	△ 1,917	44,587	26,681	46,504	28,060	
5	△ 16,357	△ 14,003	7,413	21,416	△ 2,354	45,471	27,975	47,825	29,597	

(注) 1 各年前年10月～当年9月

2 「社会増減」「転入」「転出」には、実務上発生する県内移動及び職権（市町長）による住民票の記載、消除による数値を含む

図4 人口動態の推移



(注) 1 各年前年10月～当年9月

2 平成24年6月分までは自然増減及び社会増減に外国人数を含まないため、平成24年分までは自然増減と社会増減の計は人口増減と一致しない

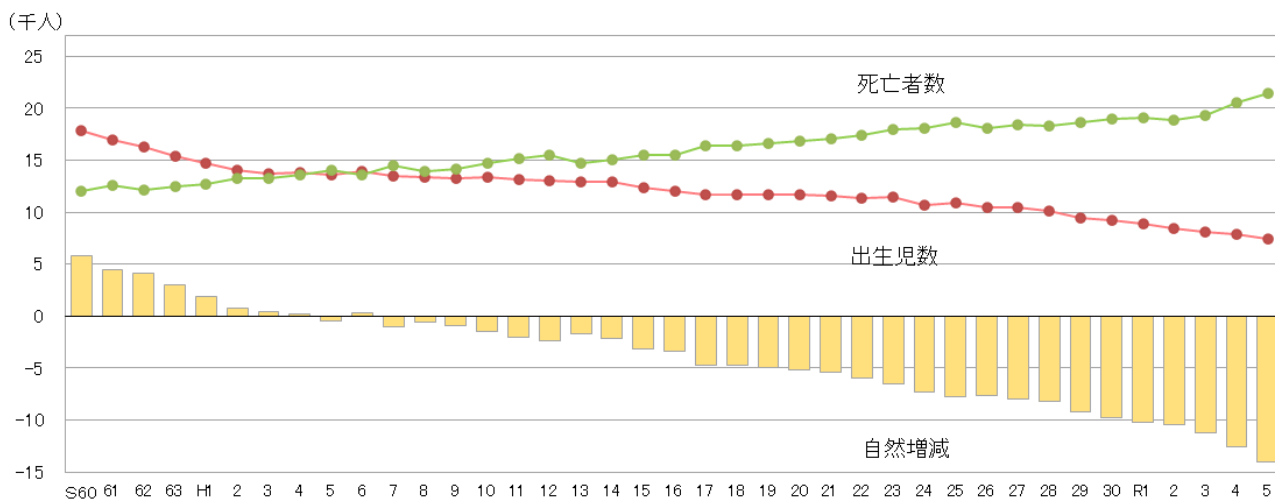
(2) 自然動態

○ 自然動態の推移

令和5年は、出生児数が7,413人（対前年△488人）、死亡者数が21,416人（同+930人）で、差し引き△14,003人の自然減となっている。

過去の推移をみると、自然増減は、平成7年以降、自然減で推移している。また、出生児数が減少傾向で推移している一方、死亡者数は増加傾向で推移しているため、長期的に減少幅は拡大傾向にある。（図5）

図5 自然動態の推移



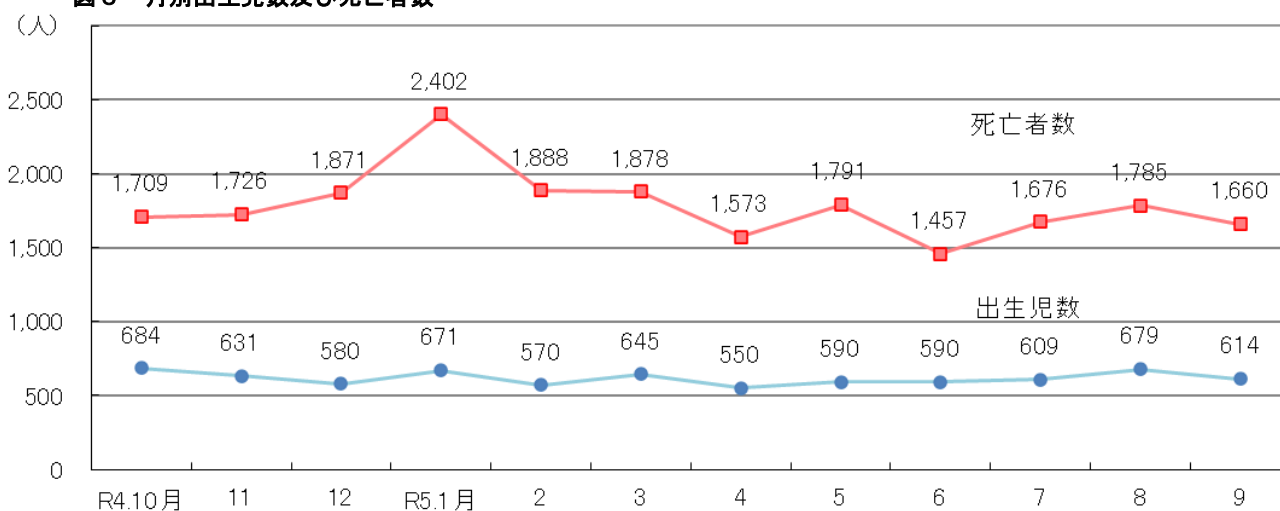
(注) 1 各年前年10月～当年9月
2 平成24年6月分までは外国人数を含まない

○ 月別出生児数及び死亡者数

令和5年の出生児数及び死亡者数を月別にみると、出生児数は令和4年10月（684人）が最も多く、次いで令和5年8月（679人）、令和5年1月（671人）となっている。

一方、死亡者数は、令和5年1月（2,402人）が最も多く、次いで2月（1,888人）、3月（1,878人）となっている。（図6）

図6 月別出生児数及び死亡者数



(2) 社会動態

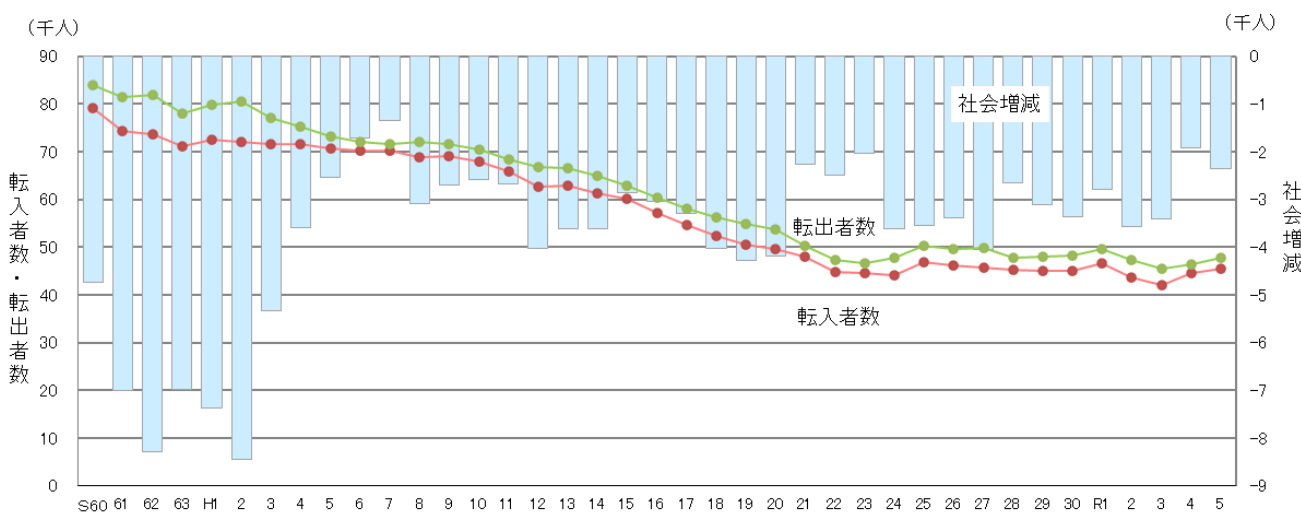
○ 社会動態の推移

令和5年は、転入者数が45,471人（対前年+884人）、転出者数が47,825人（同+1,321人）で、差し引き△2,354人の社会減となっている。

令和4年の社会減は前年より1,496人縮小したのに対し、令和5年の社会減は、転出者数の増加幅が転入者数の増加幅を上回ったため、前年より437人拡大した。

過去の推移をみると、社会増減は一貫して転出超過で推移しているものの、令和4年は大幅に縮小し、令和5年も例年に比べ低い水準となっている。（図7）

図7 社会動態の推移



(注) 1 各年前年10月～当年9月
2 平成24年6月分までは外国人数を含まない

○ 社会動態の内訳等

令和5年の移動者総数は、前年に比べ2,522人増加の75,859人となっており、その内訳は、県外移動者57,572人（対前年+2,831人）、県内移動者（転入者）17,328人（同△407人）、その他移動者959人（同+98人）となっている。（表9）

表9 社会動態の内訳

(単位：人)

年次	性別	移動者 総数 (a)=(b)+(f)+(g)	県外移動者			県内 移動者 (f)	その他移動者				社会増減 (k)	
			総数 (b)=(c)+(d)	転入 (c)	転出 (d)		増減 (e)=(c)-(d)	総数 (g)=(h)+(i)	転入 (h)	転出 (i)		増減 (j)=(h)-(i)
令和4年	総数	73,337	54,741	26,681	28,060	△ 1,379	17,735	861	171	690	△ 519	△ 1,917
	男	40,268	30,327	15,072	15,255	△ 183	9,460	481	121	360	△ 239	△ 432
	女	33,069	24,414	11,609	12,805	△ 1,196	8,275	380	50	330	△ 280	△ 1,485
令和5年	総数	75,859	57,572	27,975	29,597	△ 1,622	17,328	959	168	791	△ 623	△ 2,354
	男	41,438	31,808	15,729	16,079	△ 350	9,067	563	122	441	△ 319	△ 762
	女	34,421	25,764	12,246	13,518	△ 1,272	8,261	396	46	350	△ 304	△ 1,592

(注) 1 各年前年10月～当年9月
2 県内移動者は転入者の数値としている
3 「その他移動者」は、職権（市町長）による住民票の記載（転入）、消除（転出）
4 本表には、県内移動に係る増減（実務上発生）を掲載していないため、「社会増減」(k)は、「県外移動者」の「増減」(e)と「その他移動者」の「増減」(j)の計と一致しない

○ 男女別県外移動者数

移動者のうち、県外移動者について男女別にみると、転入者、転出者とも男性が女性を上回っているが、転出超過は、男性 350 人に対し女性 1,272 人と、転出超過の約 8 割を女性が占めている。(図 8、図 9)

図 8 男女別県外転入者数及び転出者数

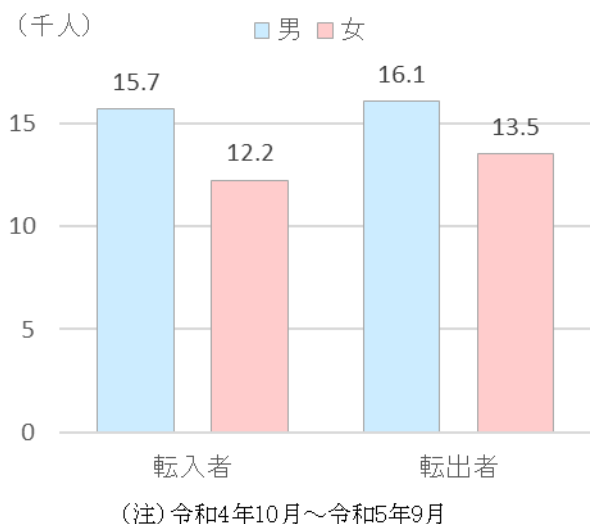
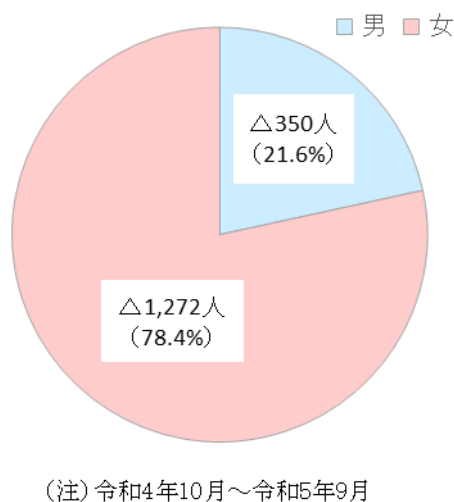


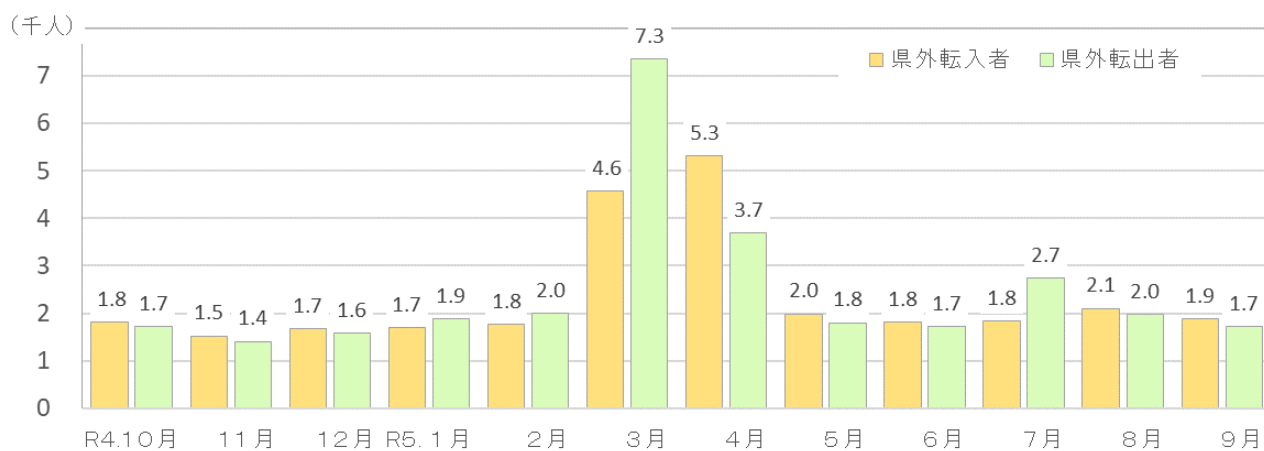
図 9 県外転出超過の男女別割合



○ 月別県外移動者数

県外移動の状況を月別にみると、年度替わりの3月、4月は、その他の月に比べて転入者数、転出者数とも大きくなっている。(図 10)

図 10 月別県外転入者数及び県外転出者数



II 市町の状況

1 推計人口

(1) 推計人口

令和5年10月1日現在の推計人口は、令和4年10月1日現在に比べ全ての市町で減少した。(表10)

表10 市町別総人口及び人口動態

(単位:人)

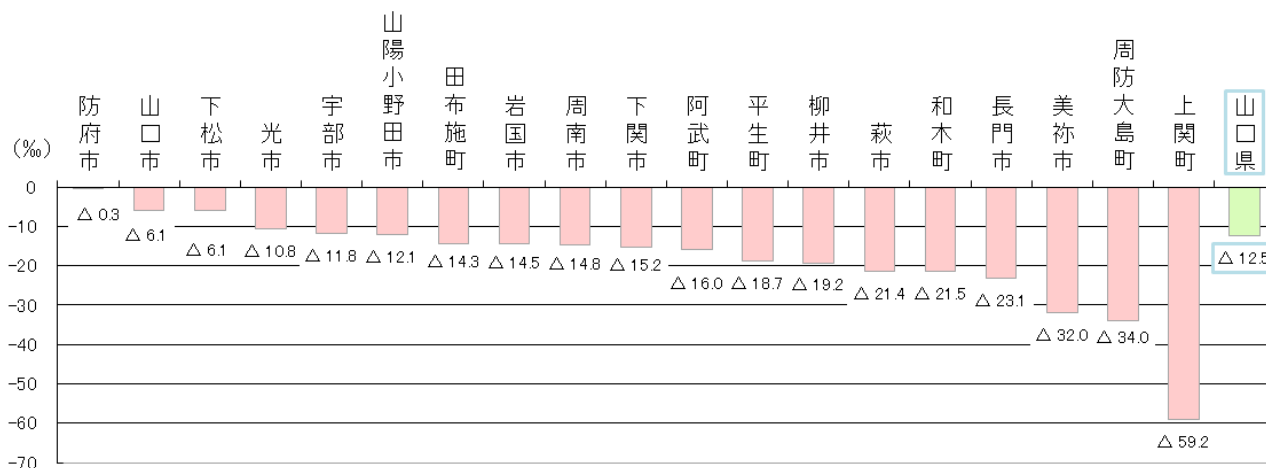
	R4.10.1現在 推計人口 (a)	令和4年10月～令和5年9月の人口動態								R5.10.1現在 推計人口 (i)=(a)+(b)
		人口増減 (b)=(c)+(f)	自然動態			社会動態				
			自然増減 (c)=(d)-(e)	出生 (d)	死亡 (e)	社会増減 (f)=(g)-(h)	転入 (g)	転出 (h)		
山口県	1,312,950	△ 16,357	△ 14,003	7,413	21,416	△ 2,354	45,471	47,825	1,296,593	
下関市	248,236	△ 3,766	△ 3,040	1,243	4,283	△ 726	6,975	7,701	244,470	
宇部市	160,020	△ 1,896	△ 1,483	1,035	2,518	△ 413	4,523	4,936	158,124	
山口市	192,198	△ 1,165	△ 1,275	1,192	2,467	110	7,741	7,631	191,033	
萩市	42,809	△ 916	△ 783	157	940	△ 133	1,200	1,333	41,893	
防府市	112,206	△ 35	△ 851	785	1,636	816	6,181	5,365	112,171	
下松市	55,716	△ 340	△ 284	440	724	△ 56	2,411	2,467	55,376	
岩国市	125,823	△ 1,820	△ 1,511	670	2,181	△ 309	4,343	4,652	124,003	
光市	48,786	△ 525	△ 442	281	723	△ 83	1,517	1,600	48,261	
長門市	31,142	△ 720	△ 556	109	665	△ 164	812	976	30,422	
柳井市	29,880	△ 575	△ 452	114	566	△ 123	997	1,120	29,305	
美祢市	22,117	△ 708	△ 420	63	483	△ 288	555	843	21,409	
周南市	134,757	△ 1,988	△ 1,324	841	2,165	△ 664	4,188	4,852	132,769	
山陽小野田市	58,855	△ 714	△ 652	275	927	△ 62	2,094	2,156	58,141	
周防大島町	13,897	△ 472	△ 418	43	461	△ 54	403	457	13,425	
和木町	5,863	△ 126	△ 52	44	96	△ 74	559	633	5,737	
上関町	2,163	△ 128	△ 81	5	86	△ 47	46	93	2,035	
田布施町	14,056	△ 201	△ 157	64	221	△ 44	435	479	13,855	
平生町	11,480	△ 215	△ 164	37	201	△ 51	393	444	11,265	
阿武町	2,946	△ 47	△ 58	15	73	11	98	87	2,899	

(注) 社会動態には、職権による記載(転入)、消除(転出)を含む。以下同じ

(2) 人口増減率

人口減少率(人口千対)が最も低いのは防府市(△0.3%)、次いで山口市及び下松市(△6.1%)となっている。一方、減少率が最も高いのは上関町(△59.2%)、次いで周防大島町(△34.0%)、美祢市(△32.0%)となっている。(図11)

図11 市町別 人口増減率(人口千対)



(注) 総人口の増減率=(総人口増減÷令和4年10月1日現在推計人口)×1,000

(3) 年齢別人口

年齢（3区分）別人口を市町別にみると、15歳未満人口の構成割合が最も高いのは和木町（15.6%）で、次いで下松市（13.7%）、防府市（12.6%）となっている。15～64歳人口の構成割合が最も高いのは山口市（57.9%）で、次いで下松市（56.7%）、防府市（56.2%）となっている。65歳以上人口の構成割合が最も高いのは上関町（57.9%）で、次いで周防大島町（55.7%）、阿武町（51.4%）となっている。

また、75歳以上の構成割合が最も高いのは上関町（35.1%）で、次いで周防大島町（34.6%）、阿武町（29.0%）となっている。（表11、図12）

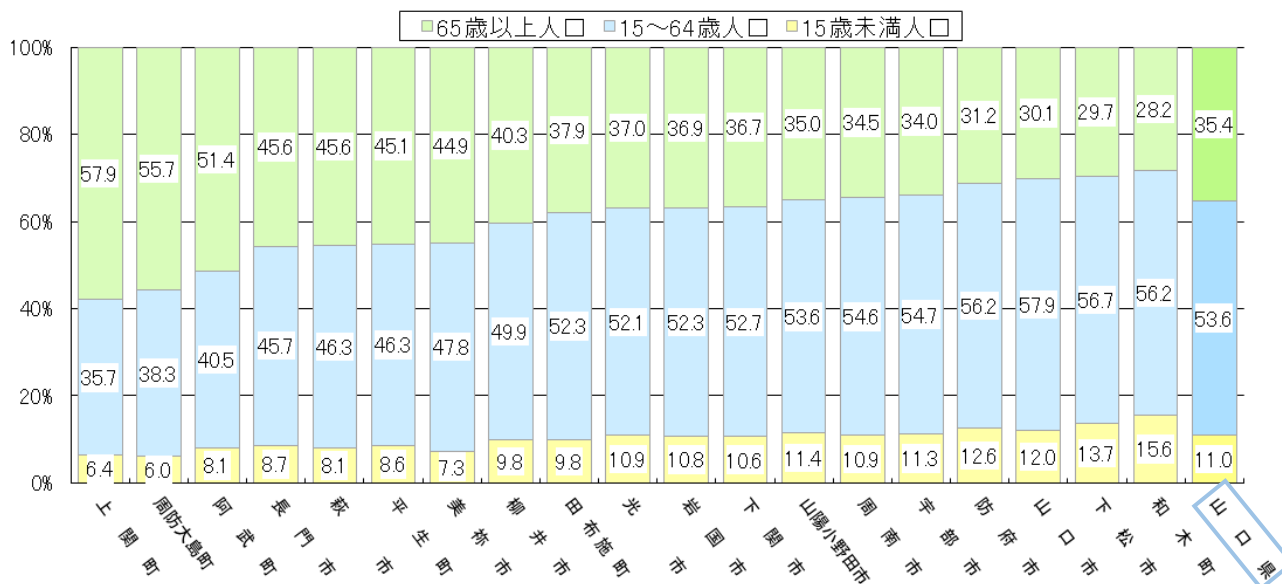
表11 年齢（3区分）、市町別人口の状況

市 町	総人口	実 数（人）				構 成 割 合（%）			
		15歳未満	15～64歳	65歳以上	うち 75歳以上	15歳未満	15～64歳	65歳以上	うち 75歳以上
山口県	1 296 593	142 942	695 113	458 538	259 608	11.0	53.6	35.4	20.0
下関市	244 470	25 944	128 878	89 648	50 748	10.6	52.7	36.7	20.8
宇部市	158 124	17 811	86 551	53 762	30 213	11.3	54.7	34.0	19.1
山口市	191 033	22 915	110 669	57 449	31 835	12.0	57.9	30.1	16.7
萩市	41 893	3 406	19 404	19 083	10 769	8.1	46.3	45.6	25.7
防府市	112 171	14 080	63 076	35 015	19 623	12.6	56.2	31.2	17.5
下松市	55 376	7 567	31 386	16 423	9 304	13.7	56.7	29.7	16.8
岩国市	124 003	13 350	64 915	45 738	26 211	10.8	52.3	36.9	21.1
光市	48 261	5 251	25 164	17 846	10 712	10.9	52.1	37.0	22.2
長門市	30 422	2 643	13 899	13 880	7 758	8.7	45.7	45.6	25.5
柳井市	29 305	2 875	14 616	11 814	6 845	9.8	49.9	40.3	23.4
美祢市	21 409	1 572	10 232	9 605	5 407	7.3	47.8	44.9	25.3
周南市	132 769	14 476	72 467	45 826	25 873	10.9	54.6	34.5	19.5
山陽小野田市	58 141	6 651	31 139	20 351	11 145	11.4	53.6	35.0	19.2
周防大島町	13 425	810	5 141	7 474	4 645	6.0	38.3	55.7	34.6
和木町	5 737	895	3 222	1 620	834	15.6	56.2	28.2	14.5
上関町	2 035	130	726	1 179	715	6.4	35.7	57.9	35.1
田布施町	13 855	1 363	7 242	5 250	2 981	9.8	52.3	37.9	21.5
平生町	11 265	968	5 212	5 085	3 148	8.6	46.3	45.1	27.9
阿武町	2 899	235	1 174	1 490	842	8.1	40.5	51.4	29.0

(注) 1 令和5年10月1日現在

2 構成割合は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない

図12 市町別 年齢（3区分）別構成割合



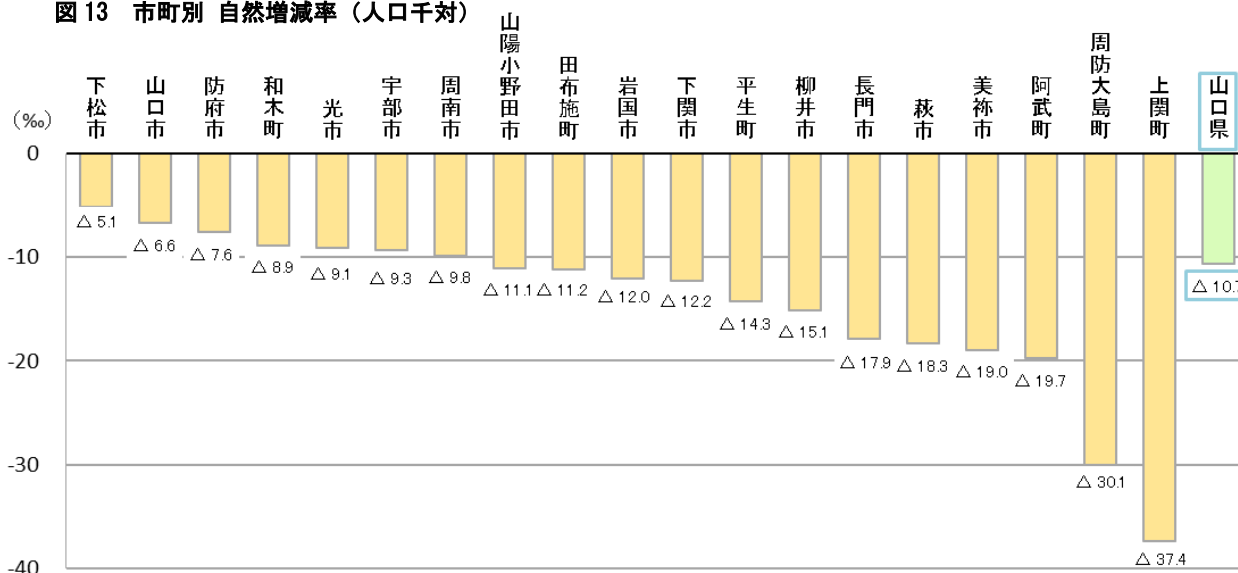
(注) 65歳以上人口の構成割合の高い順

2 人口動態

(1) 自然増減率

令和5年の自然増減率を市町別にみると、全ての市町で自然減となっており、自然減少率が最も低いのは下松市（△5.1‰）、次いで山口市（△6.6‰）、防府市（7.6‰）となっている。一方、自然減少率が最も高いのは上関町（△37.4‰）、次いで周防大島町（△30.1‰）、阿武町（19.7‰）となっている。（図13）

図13 市町別 自然増減率（人口千対）

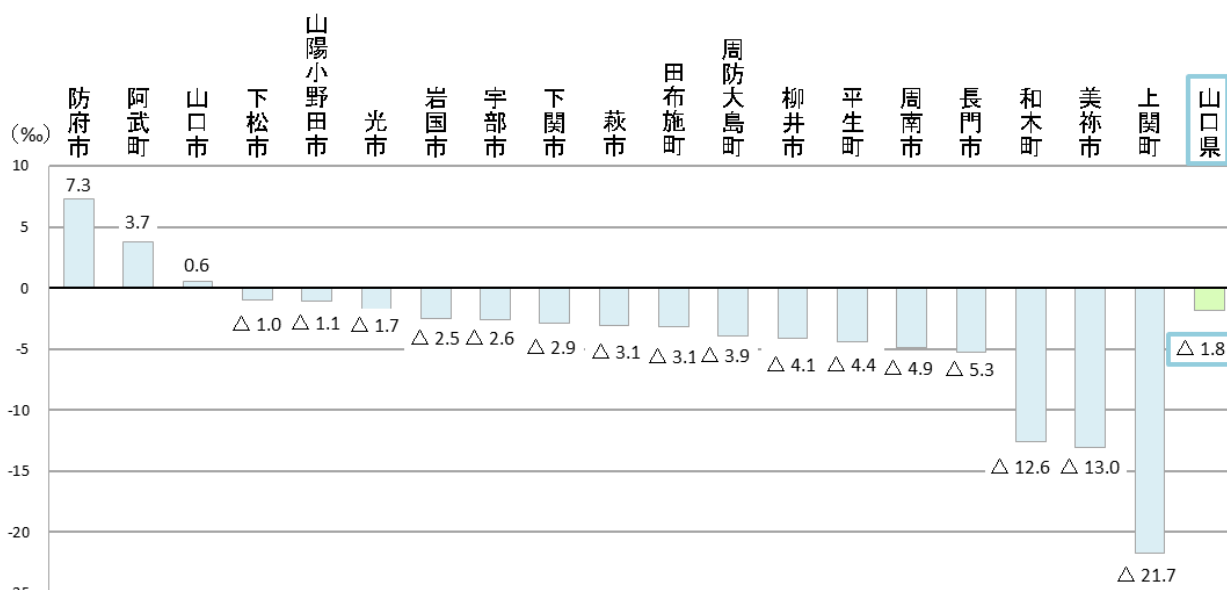


(注) 自然増減率=(自然増減数÷令和4年10月1日現在推計人口)×1,000

(2) 社会増減率

令和5年の社会増減率を市町別にみると、社会増加率が最も高いのは防府市（7.3‰）、次いで阿武町（3.7‰）、山口市（0.6‰）となっている。一方、社会減少率が最も高いのは上関町（△21.7‰）、次いで美祿市（△13.0‰）、和木町（△12.6‰）となっている。（図14）

図14 市町別 社会増減率（人口千対）



(注) 社会増減率=(社会増減数÷令和4年10月1日現在推計人口)×1,000